

浄泉寺

信号
第24号

新しい年がはじまりました。これから始まる皆さまの新しい一年が、つねに光とともにありますように願っています。

さて人間同様、言葉も生まれ、いつのまにか忘れられていくものです。たとえば落語によく出てくる「長屋」は、現代ではもはや見かけません。私も長屋を実際に見たことはありません。長屋とは時代劇と落語の中だけで生きている言葉ではないでしょうか。昨年の流行語大賞に選ばれた「神ってる」や「ゲス不倫」「保育園落ちた日本死ね」などを私たちはまだ覚えていますが、数年たてば色あせ、数十年たてば言葉を知らない世代が増え、いずれ忘れられるでしょう。仏教で使われる言葉も同じように、色あせて、いずれ忘れられていくさだめです。

たとえば「御取越」。「取越苦勞」とは先のことであれこれと考え、要らぬ心配をしてしまうことですが、「取越」とはもと、一定の期日より早めに物事を済ますことを意味する仏教の言葉です。親鸞聖人の祥月御命日である1月16日(西本願寺の場合)あるいは11月28日(東本願寺の場合)に、報恩講という大きな法要がそれぞれのご本山でつとめられ、全国から門信徒が参集します。報恩講は全国各地の真宗寺院でもつとめられますが、当日にその法要をつとめたのでは本山に参詣できませんから、全国各地の真宗寺院は日を繰り上げて早めに済ませています。そのことを「御取越」または「御取越

報恩講」と言いました。このことから、報恩講に限らず一般家庭のご法事も忌日を引き上げてつとめられるようになったそうです。現代でも「ご法事を命日より前にすべき」とよく聞きます、もとはと言えはこの「御取越」の習慣が一般家庭にも根付いていたからでしょう。そうした習慣は根付いているものの、しかし「御取越」という言葉は近い将来、忘れられていくのかもしれない。

また「あきらめる」は仏教語にもありますが、断念したり途中で放り出すといった意味ではありませんでした。仏教で「諦める」と書きますと、「真実に近づく」「明らかに究める」という意味で使われます。それが同語「あきらむ」という他動詞が「思いを絶つ」という意味をもつ

仏教と言葉

ていたため、どこかで混同され、「思いを絶つ」という意味でしか使われなくなつたようです。ある高僧は格言を残しています。「問題に直面した時、それについてまず考え、分析しなさい。克服する方法があるならば、心配する必要はない。がんばりなさい。克服する方法がないならば、心配しすぎるのは無駄です。諦めなさい。心配しすぎると悲劇がますますひどくなります」。諦めるとは字の如し。断念することによって、真理に近づくという示唆を与えてくれます。

「一味」といえば唐辛子を思い浮かべますが、仏教では同志、仲間、味方という意味で使います。お釈迦さまが説かれた教えは時と場所、相手の素質能力でさまざまに分かれるものの、中味は同じ。それを「一味の法」とか「一味の

安心」と言ったりします。「一味」に対して「七味」は仏教語に元来ないようです。しかし「五味」(牛乳を精製してバターになるまでの五段階、醍醐味はその第五番の味)が仏教語にありますから、私が考えますに、「唐辛子から生まれた一味、そこに五味より多い味を混ぜ、七難(これも仏教語)滅す七味唐辛子」などと銘打って最初売り出したのではないのでしょうか。しかし根拠はなく、あくまで推測です。ところで七味唐辛子は山椒、胡椒、青のり、シソ、麻の実、芥子の実、陳皮を調合したものだとか。

いつも、ふだん、始終の意味で日常語に「しょっちゅう」と言いますが、『広辞苑』には「初中後の転か」とあります。これは仏さまのお説きくださった教えを讃える言葉として、「初めにも善く、中にも善く、後にも善く」「初中後善」と経典にあることから、音は「しょっちゅう」と転じ、意味はいつも、ふだん、始終というもともとの意味が残ったものといわれます。親鸞聖人の御命日まで一週間かけてご本山でつとめられる報恩講という大きな法要に、「どの日の法要にお参りしたら良いですか?」と尋ねられれば、私はいつもこの「初中後」をお勧めしています。初め、つまり初日の一番最初のおつとめ、西本願寺でしたら1月9日午後2時の法要。もしくは中、つまり中日にあたる1月12日午後2時の法要。あるいは後、つまり最終日にあたる1月16日午前10時の最後の法要。ご本山では初日と中日、そして千秋楽にあたる最終日はひととき大きな法要をおつとめします。お参りになると自分の功德にもちろんつながりますが、なにより見ごたえ聞きごたえ迫力が違います。ぜひお参りください。(住職)



昨年7月、恒例の盂蘭盆会うらぼんえ（お盆の法要）を築地本願寺（東京・中央区）で勤め、116名の方々と一緒に、亡くなられた方を思い静かな時間を持ちました。おつとめも大事ながら、「お料理も楽しみです」という声をいただきます。料理長が毎回工夫をこらしてくださっています。誠にありがたいことです。本年は7月17日に予定しており、5月頃に往復葉書で出欠をお尋ねする予定です。



浄泉寺で絵本を作りました。浄泉寺の坊守ほうもりが文を書き、浄泉寺で書道を教えてくださっている女性書家が絵を描き、タイトルを書いてくださっています。「まんまんちゃんタイムマシンにのって」のまんまんちゃんとは、仏さまを指す関西地方の言葉で、住職一家は子育てで仏様のことをこう言っています。主人公の女の子たまちゃんは待ち望んだ弟が生まれてうれしいけれど、反面自分が可愛がってもらえなくなって欲求不満の毎日。そんなある夜たまちゃんは夢を見て、何かのタイムマシンに乗りました。タイムマシンで行った先は、自分が赤ちゃんで生まれた時代。両親に抱かれ、祖父母に見守られている赤ちゃんは幸せそのもの。「あの赤ちゃんはたまちゃんだよ」と、どこかから声が聞こえて夢が覚めました。さあて、感動のラストはぜひ読んでみてください。自費出版ならぬ慈悲出版ですので、ご希望の方はお寺にご連絡ください。電話0493(54)8803（浄泉寺）

【浄泉寺の今後の活動】

1月1日(日)8時

元旦会（元旦の法要）

（浄泉寺本堂・埼玉県吉見町）

★お寺参りが億劫でも、一年のはじめに、おせちを食べるより先に、ご夫婦ご家族でお仏壇の前で手を合わせましょう。

1月3日(火)10時と13時

書き初め道場（浄泉寺本堂）

★年頭にそれぞれの言葉を残しましょう。

1月15日(日)9時30分

新年のつどい&コーラス練習

（浄泉寺本堂）

1月20日(金)19時

親鸞聖人御消息講座（最終回）

（フレサよしみ・埼玉県吉見町）

2月17日(金)19時

無量寿経講座（第1回）（フレサよしみ）

2月18日(土)9時

写経会（浄泉寺本堂）

3月17日(金)19時

無量寿経講座（第2回）（フレサよしみ）

3月19日(日)14時

彼岸会（浄泉寺本堂）

■ 1月15日(日)9時30分から「新年のつどい&コーラス練習」を開催します。午前9時30分から本堂で新年のおつとめをいたします。引き続きおもちつき



交流会ですが、屋外で火を熾してもち米を蒸して、臼で搗いて、形と味を調えるまで、時間のかかることです。寒さに充分備えた服装でお越しください。ぜひお子様、お孫様連れでどうぞ。お餅をお昼にいただいて、今回のつどいは子ども会を

兼ねておりますため、かるた大会で楽しんで、13時からコーラスの練習初めをして14時頃に終わる予定です。途中からのご参加、途中で帰るなど、ご自由にそれぞれのご都合に合わせて、お一人でも多くのご参加をお待ちしています。おもちの量を計算しますため、ご参加いただける方は、事前にご連絡ください。電話0493-54-8803（浄泉寺）